

本日は年度末のお忙しいところ、遠方からもご参集いただき誠にありがとうございました。めでたく今年退職を迎えることができましたのも、ひとえに皆様のご支援ご厚情の賜物と心よりお礼申し上げます。

大学に
も小泉

以下の熊八談義は、国立大学の法人化の話がでてきた2002年に名大職組の討議資料として作ったものです。お帰りの車中でも目を通していただければ幸いです。 椿 淳一郎 (March 19, 2014)

改革

ンだろう。

八さん おい、熊。最近のニュースじゃ、大学も改革されるて言うじゃないか。さすが小泉首相だね、聖域なき改革だよ。これで、大学も世間並みにシャキットなってもらいたいね。

八さん もったいぶらねえで、はやく教えろ。

熊さん

熊さん いや、おれんちの町内に大学の先生が居てよう、その話になったんだよ。

八さん なんだお前、そう思わないのかあ。だってそうじゃないか、世間じゃリストラだ倒産だて言ってるときに、学問の自由とかのんきなこと言うてよう。それに休みは長いし、のんびりしていいね大学は。大学の先生もよ、ちったあ他人と競争してもらって、効率を上げてもらわなきゃよう、国民感情ってえものが納得しないよ。

八さん それで。

熊さん 先生が言うにはよう、お前が言ってた競争と効率、大学にはなじまねえてんだ。

熊さん いやおれもよう、そう思ってたんだが、どうも話はそう単純じゃねえらしいんだ。

八さん なんだ、そのなじまねえてのは。この不況なんだからよ、わけのわからんところは放っておいて、ゼニ儲けになりそうなところにドーンと予算を付けて、新しい産業を起こしてもらいたいねえ。いまはやりの、ベンチャラビジネスってやつだよ。

八さん 単純じゃないって、どう複雑なんだい、競争して効率上げなきゃよその国に負けちゃうよ。なんせグローブでしようの時代だからよ。

熊さん ばか、ベンチャラじゃないよベンチャーだよ。いや、おれもそう思ったんだが、先生は、大学が全部そうなるのはとっても危険だって言うんだ。

八さん なんてだ。

熊さん ドーンと金をつぎ込んだのが失敗したらどうなる。ITバブルみたいによ。

熊さん ばか、それを言うならグローバリゼーショ

八さん 目も当てられんな。

熊さん そうだろう。ところがわけがわからんと思
ったやつにも、細々でも予算がついて研究が進んで
いけば、また別の手が直ぐに打てるわけだ。

八さん なるほど。

熊さん それに、ノーベル賞をもらった白川先生の
研究は、当時は評価されなかったと言うじゃないか。

八さん そうか、みんなに直ぐにほめられるってこ
とは、みんなとまあ同じ程度ってことか。

熊さん そうなんだ。世の中を変えるような研究は、
すごすぎて誰も評価できないことが珍しくないん
だそうだ。

八さん なるほど、わけがわからんように見える研
究の中に、そう言うすごいのがあられるかもしれんって
わけだ。

熊さん そうよ、凡人があれを研究しなさいこれを
研究しなさいと指図をすると、チョコチョコとした
成果は上がるかもしれんが、世の中を変えるような
研究の芽をつぶしてしまうってことらしいんだ。

八さん で、結局は大きな産業も起きずに、グロー
バリゼーションの競争にも負けて、効率が悪いって
ことか。

熊さん 今度は間違えずに言えたな。

八さん それで昔から「学問の自由」って言われて
るのか。なるほど効率が大学になじまないことはわ
かった気がするな。じゃ、競争の方はどうなんだ。

熊さん 研究てえのは、誰もやらない新しいことを
やる、何でも真理の探究って大学じゃ言ってるらし
いが、みんな違うことをやってる、だから競争には
ならない。

八さん そう言や、ノーベル賞受賞後に野依先生も
言ってたな、学問で競争てえのは、ベートーベンと
モーツアルトを競争させるようなもんだと

熊さん 近所の先生も言ってたよ、競争の勝ち負け
を決めるには、物差しがいるって。ベートーベンと
モーツアルトじゃどっちのCDがよけいに売れた
とか、作曲した数とかな。

八さん なるほど、物差しがくだらねえと、比べた
結果もくだらねえってことか。

熊さん そうよ。問題は、すごい研究を測る物差し
は誰も持ってないってことらしいんだ。

八さん さっきと同じ話だな。確かに物差しが無い
んじゃ、比べようもないな。

八さん しかしよう、小泉首相だぜ、その辺のどこ
は案配よくやってんだらう。

熊さん ところがな、先生が言うには逆なんだよ。

言葉だな。

八さん どう逆なんでえ。

熊さん あの時代、大学までもが右向け右で、結果

熊さん なんでも、大学がなんたるかを国がグラン

はとんでもないことになった。大学も国の破滅に手

ドデザインの中で決めるんだとよ。

を貸したと言う反省から、大学は誰からも縛られず

八さん なんだそのグランドデザインてえのは。

に自由でなきゃいかんと言うことで、戦後の大学は

熊さん ま、簡単に言やぁお国の政策だよ。

スタートしたらしいんだ。

八さん さっきの話じゃ、大学は誰もやらないこと

八さん なるほど、世の中にはそんな部分が必要だ

や新しいことを考えたり作ったりするところ、真理

な。なんせあの戦争ではみんなが痛い目にあってる

探究の場と、昔から決まってんじゃないのかい。

からな。それで大学の自治で言われるのか。

熊さん それだけじゃないらしいんだ。大学が数年

八さん 大学って言やよ、教育もやってるだろう。

の内に何をやるかは、お国が決めて、それができた

教育の方はどうなってんだい。

かどうかをお国が判断して、それに応じて次の年の

熊さん 先生の話じゃ、大学版小泉改革には、学生

予算が決まるらしいんだ。

の話は出てこないらしいぜ。

八さん なんだい、なんだい。それじゃが感じがら

八さん 話が出てこないと言うことあ、学生には興

めじゃないか。自由もへったくれもねえな。お国の

味がないってえことか。若いもんを大事にしないん

思いのままじゃねえか。

じゃ、日本の将来も明るくないな。

熊さん 先生も怒ってたぜ、大学が大学でなくなる

熊さん そのとおりよ。なんでもよ、近所の先生が

って。

学生の頃と比べるとよ、いまは大学院生の数は倍な

八さん じゃ、なんになるんでえ。

んだが、肝心の先生や職員の数は半分にへっている

熊さん 国策実施機関だとよ。殖産興業の時代と同

んだとよ。

じになるってよ。

八さん なんでそんなことになるんでえ。

八さん 殖産興業って、さきの戦争の前にはやった

熊さん なんでも、高等教育の充実ってえ名目で院

生の定員を増やして、経費節減でずっと教職員を減らしてんだってよ。

八さん

熊さん だいぶ頭に來たようだな、じゃとどめを刺してやろうか。今度の小泉改革でな、日本育英会の奨学金をなくすってよ。全部ローンだよ、今までは学校の先生になったり、研究所に勤めたりすると返済は免除されたが、これからはそうはいかねえ。

八さん そいつぁひでえや。おれなんぞ成績が悪かったからよ、学校に行かなくても仕方がないと思っただが、貧乏人でも成績がよけりゃあ、大学にいかせてやりたいと思うのが、親の情ってもんだ。そのためにあるのが奨学金だろ。それを削ろうって魂胆は許せねえ。なんでい、なにが米百俵だ。小泉改革でえのは、大学を丸ごとゼニ儲けに使おうって腹か。それで、大学の先生たちや黙ってんのかい。ご当人だろう。

熊さん ほとんどの人は反対してるらしいが、お国は言うことを聞かなきゃ金はやらないよどころか、大学をつぶしちゃうよと脅しをかけてるらしいんだ。

八さん きったねえな、お国は。それでどうなって

んだい。

熊さん お取りつぶしと兵糧責めの脅しでよ、多くの大学じゃ、まだ法案もできてねえのに、先を争ってお国にしっぽ振ってるらしいぜ。

八さん なっさけねえ話だな、新しい世紀を迎えたばかりなのによ、大学がこんなようすじゃ、お先まっくらだぜ。なんかできねえのか。

熊さん そうよ。なんでも三月二日（土）によ、愛大の車道校舎で大学改革を考えるシンポジウムってえやつがあるらしいぞ。

八さん そいつは、みんなを誘って行かなきゃな。おれは、寅のやつを連れていくぜ。